

# 組織における問題解決を主題とするビデオと オンラインレポートを活用した授業実践

仲林 清\*, \*\*

## An Educational Practice on the Subject of Problem Solving in Organization Using Video Content and Online Report Submission System

Kiyoshi NAKABAYASHI\*, \*\*

This paper discusses an educational practice on the subject of problem solving in organization for third year university students. The goal is to foster the understanding about the importance of finding and solving problems in organization as well as improvement of members' motivation and continuous learning. Since these topics could be difficult for the learners to understand through the traditional lecture, the course was designed to exploit the documentary video content dealing with an actual organization management and online report submission to share learners' opinions. Evaluation results indicate that the course objective was successfully achieved in terms of learners' comprehension and motivation.

キーワード：問題解決，動機付け，組織における学習，既有知識の活用，自他の意見の比較，ドキュメンタリービデオ

### 1. はじめに

工業社会から情報社会への産業構造の変化が、企業などの組織のあり方に大きな影響を及ぼしている。工業社会では階層型のトップダウン組織が効率的とされてきたが、情報社会では構成員が自律分散的に行動するネットワーク型の組織が望ましいとされている<sup>(1)(2)</sup>。そのような組織を構成する個人に対しても、問題解決力、リーダーシップ、自己学習力、などの、いわゆるジェネリック・スキルが求められるようになってきている<sup>(1)~(3)</sup>。さらに現代の組織では、このような能力の育成に向けた環境の提供やモチベーションの喚起が不可欠になっているともいえるであろう<sup>(2)(3)</sup>。

本論文では、このように近年個人に求められる能力について、特に組織における問題解決を主題に、大学3年生向けに授業を行った実践事例について述べる。

本実践は、ビデオとオンラインレポートを活用して、情報技術の社会的な役割に関する学習者の理解や学習動機などの向上を図った実践<sup>(4)(5)</sup>の枠組みを、ジェネリック・スキルの学習に適用したものである。本研究で扱うようなジェネリック・スキルを学生時代に身につける機会として、金子<sup>(6)</sup>は以下のように述べている。

(略) サークル活動やボランティア活動、あるいはアルバイトの経験が「社会に出てから役に立つ」といわれるのは、そうした活動においてこそ、主体的参加と深い経験が得られ、それが実際に社会的な基礎能力や、ひいては一定の自己・社会認識を定着させる効果をもっていることが暗黙のうちに了解されているからであろう。しかし、それは結果的に生じることもあるだけであって、蓋然

\* 千葉工業大学情報科学部 (Faculty of Information and Computer Science, Chiba Institute of Technology)

\*\* 熊本大学教授システム学専攻 (Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University)

受付日：2014年6月10日；再受付日：2014年10月8日；採録日：2014年11月10日